

## 平成26年度授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	情報と職業(Information and Vocation)		授業コード	K005801
担当教員名	高 文局		科目ナンバリングコード	K30302
配当学年	2	開講期	前期	
必修・選択区分	必修【教職:情報】	単位数	2	
履修上の注意または履修条件	特にありません。			
受講心得	プリントの配布や課題があります。遅刻・欠席をしないよう心がけてください。			
教科書	別途指示します。			
参考文献及び指定図書	『情報と職業』近藤 勲編著、丸善株式会社 『情報と職業』駒谷 昇一 他2人共著、オーム社 『情報化社会と情報倫理』辰巳 丈夫著、共立出版 『情報化社会と人権』山下 栄一、井上 洋一共著、明石書店 『インターネットビジネス』小川 唯史著、新紀元社 『職業と人間形成の社会学』伊藤 一雄著、法律文化社			
関連科目	情報メディアと社会、情報メディアと法・倫理、情報メディアとビジネス			

授業の目的	社会の情報化にともない、就業構造や職種構成が大きく変化しています。さらに、企業における情報技術は、ビジネスモデルの変革だけでなく、雇用関係や人事管理など企業組織自体にも大きな変化をもたらしています。本科目は、このような前提のもと、情報と職業の関わり、情報に関する職業人としての在り方等を理解することを主な目的とします。
授業の概要	本講義ではまず、情報化社会の特質を歴史的・社会的文脈から把握し、その可能性と課題を事例を通じて理解してもらうことにします。そうすることによって、現実の社会情勢の推移並びに科学技術の発達と現状を正しく、またクリティカルに認識し、柔軟に、かつ、的確に対応できる資質・能力を身につけます。また、情報ネットワーク社会の中心的な役割を果たしているインターネットを中心に、働く環境と勤労観の変化に伴う諸課題を、事例を通じて考察し、情報化社会に参画する構成員としての知覚と責任感について議論します。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
<b>第1週：ガイダンス</b> 「情報と職業」授業の目的と意義について概説します。また、講義の進め方や評価方法についてのガイダンスも行ないます。	
<b>第2週：情報化社会を理解する</b> ここでは、情報化社会を理解するために基本となる概念や内容を学習します。さらに、社会の情報化とその課程を歴史的な観点から考察します。そうすることによって、現代の情報化社会を見つめ直してみましよう。 ・「情報」とは？(情報の語源的な意味、データ・情報・知識の関係、情報の機能など) ・情報と形態と種類 ・情報の性質 ・メディアと社会の情報化	配付資料 「情報化社会を理解する。」
<b>第3週：現代社会における情報化と情報化の「光の部分」と「影の部分」</b> ここでは、今日の社会における情報化を各領域別に考察し、社会の情報化にともなうさまざまな可能性と課題(問題)を中心に、情報化社会の「光の部分」と「影の部分」を、映像を観ながら概説し学習します。	配付資料 「情報化の「光の部分」と「影の部分」について考える。」
<b>第4週：情報化社会と人権</b> 社会の情報化が急速に進展しつつある現在、最優先されるべき普遍的価値としての「人権」という観点から、情報化社会が直面するさまざまな問題を考察してみましよう。 ・情報と人間生活 ・情報と人権(自己情報統制権、アクセス権、情報共有権、表現の自由、反監視権など) ・人権という視点から見た情報化社会の特質と問題点	配付資料 「情報化社会と人権について考える。」
<b>第5週：情報化社会と情報倫理</b>	

<p>ここでは、「情報倫理」を取り上げます。いわゆる「情報倫理」といわれているさまざまな対象を紹介しながら、それがどうして「情報倫理の問題」と呼ばれるようになったのか、そして問題点の解決には何が必要なのかなどを考え、これらの対象の問題構造を明らかにしていきます。</p>	<p>配付資料 「情報化社会と情報倫理について考える。」</p>
<p><b>第6週：職業と社会</b></p> <p>ここでは、職業の語意を中心に「職業倫理」について考えてみましょう。また、日本の産業構造の変化と職業について、歴史的な観点から考察してみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職業の語意と職業倫理</li> <li>・日本の産業構造の変化と職業</li> </ul>	
<p><b>第7週：インターネットビジネス(1)ーインターネットとコミュニケーション</b></p> <p>インターネットにより容易に必要な情報を検索することができるようになり、消費者が商品を購入する場合においても、まずインターネットから情報を得て、その情報を基にして商品を選択・購入するという新しい消費行動スタイルに変わりつつあります。また、企業においても広告宣伝や商品の販売などで、インターネットを活用した新しいビジネススタイルが生まれてきています。ここではインターネットにより、どのようなビジネスが生まれてきたか、インターネットがビジネスのやり方をどう変えつつあるかを学びます。まず、インターネットを理解するための基礎知識を学習することにしましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人間とコミュニケーション</li> <li>・メディアとコミュニケーション様式</li> </ul>	<p>配付資料 「インターネットとコミュニケーションについて。」</p>
<p><b>第8週：インターネットビジネス(2)ーマス・メディアと社会</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大衆、群集、公衆について</li> <li>・マス・メディアと社会</li> <li>・マス・コミュニケーション効果研究</li> </ul>	
<p><b>第9週：インターネットビジネス(3)ー韓国の情報化</b></p> <p>ここでは、IT先進国といわれる韓国の情報化を事例にインターネット空間の可能性と課題を考察します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・韓国の情報化と「ソーシャル・メディア」</li> <li>・情報化社会その可能性と課題</li> </ul>	
<p><b>第10週：情報化社会における犯罪と法制度(1)</b></p> <p>私たちが情報化社会において安全に生活するためには、ハイテク犯罪に関する知識は不可欠となってきています。ここでは、ハイテク犯罪の事例を学ぶことで、情報化社会の危険性を正しく認識し、ハイテク犯罪に巻き込まれないように自己防衛するためのセキュリティ技術などを学びます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハイテク犯罪</li> <li>・コンピュータウイルスや迷惑な電子メール</li> <li>・セキュリティ対策</li> </ul>	<p>配付資料 「情報化社会における犯罪と法制度」</p>
<p><b>第11週：情報化社会における犯罪と法制度(2)ー知的所有権</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・工業所有権</li> <li>・著作権(著作財産権、著作者人格権)</li> </ul>	<p>配付資料 「知的所有権について考える。」</p>
<p><b>第12週：情報化社会における犯罪と法制度(3)ー事例を中心に</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハイテク犯罪での著作権法違反</li> <li>・フリーソフトウェアの著作権など</li> </ul>	
<p><b>第13週：職業指導1【情報関連職業と私ープレゼンテーションの準備ー】</b></p> <p>私たちは情報化社会の一員として仕事につくときに、たくさんの選択肢の中から自分の方向性を決めていかなくてはなりません。その過程では、たくさんの情報の中から必要なものを選び取っていくという、情報活用の力を養うために必要な要素も入っています。さらに、高校の教員を目指す人達にとっては、その情報を自分で理解するだけでなく、それをうまく伝えるというもっと身近な問題が生じてきます。物事を他の人に「伝える」ということは、自分が「理解する」ということよりも一歩上のレベルにあると言えます。この授業を通して、よりよい情報活用の方法を身に付ければ、私たちの自信にもつながり、また、それによつて的確な指導やアドバイスも可能になるはずです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・PowerPointの基礎と情報収集と整理</li> <li>・発表資料の作成</li> </ul>	
<p><b>第14週：職業指導2【情報関連職業と私ープレゼンテーションと評価(発表)ー】</b></p>	

<p>ここでは、作成したプレゼンテーション資料をもとに「情報関連職業と私」というテーマで発表を行ないます。それぞれのプレゼンテーションについて、効果の有無や内容、方法が聞き手の期待に応えるものであったかについて評価します。その結果を自分のプレゼンテーションにフィードバックしましょう。</p>	
<p><b>第15週：授業の総括とまとめ</b></p> <p>ここでは、今まで議論してきた内容について総括とまとめを行います。</p>	
<p><b>第16週：期末試験</b></p> <p>これまでの講義内容を範囲とした小論文形式の試験を行います。</p>	
<p>授業の運営方法</p>	<p>(1) 授業の形式 「講義形式」</p>
	<p>(2) 複数担当の場合の方式</p>
	<p>(3) アクティブ・ラーニング</p>
<p>備考</p>	

<p>○単位を修得するために達成すべき到達目標</p>	
<p>【関心・意欲・態度】</p>	
<p>【知識・理解】</p>	<p>①情報化社会の特質を把握し、その可能性と課題を理解する。 ②情報ネットワーク社会の中心的な役割を果しているインターネットを中心に、働く環境と勤労観の変化に伴う諸課題を理解する。</p>
<p>【技能・表現・コミュニケーション】</p>	
<p>【思考・判断・創造】</p>	<p>③情報化社会に参画する構成員としての知覚と責任感について考える。</p>

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等 (テスト)	レポート・作品等 (提出物)	発表・その他 (無形成果)	
<b>【関心・意欲・態度】</b> ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。		10点		
<b>【知識・理解】</b> ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。	40点			
<b>【技能・表現・コミュニケーション】</b> ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。			20点	
<b>【思考・判断・創造】</b> ※「考え抜く力」を含む。	20点	10点		
<b>(「人間力」について)</b> ※以上の観点に、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。				

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等 (提出物)	レポートやプレゼンテーション作品を評価対象にします。 レポートは、授業時に指示される記載注意事項に従って、Word文書として作成し締切日まで提出してください。
発表・その他 (無形成果)	プレゼンテーションを評価対象にし、発表内容や態度などを総合的に評価します。 さらに、授業に欠席や遅刻・早退せずに、意欲的に取り組んだ場合、評価の対象とします。